



中央小の児童がサーフィン体験

ふるさと教育の一環として中央小学校の4年生24人が8月22日、浜厚真海浜公園でサーフィンを体験しました。

地域に根付くスポーツの体験を通して、郷土愛やふるさとへの理解を深めてもらうため、地元のインストラクターの協力のもとで毎年、体験教室を開いています。

砂浜に集まった児童は、手伝ってもらいながらウエットスーツに着替え、浜辺でサーフボードに立つための一連の動作を確認。板に乗る位置や、両手を使ったバランスのとりの方法を教わると、海に繰り出して波乗りに挑戦しました。

すぐにバランスを崩して海中に倒れていた児童も、何度か繰り返すうちに上達し、手を振る余裕も生まれました。



基本動作を学び、サーフィンを体験する児童

厚真町戦没者追悼式

厚真町戦没者追悼式が8月25日、総合福祉センターで営まれ、出席した40人は戦禍で犠牲になった118人を悼み恒久平和を願いました。

宮坂町長は「胆振東部地震を経験した私たちは、だれよりも命の大切さを知っています。私たち世代が、次の世代に平和の尊さを引き継がなければなりません」と式辞を述べ、来賓の北海道知事代理、渡部町議会議長、一般財団法人北海道連合遺族会が「戦争の悲惨さと平和の尊さを風化させてはならない」と誓いの言葉を述べました。また、町遺族会の加勢敏和会長は「史実を後世に語り継ぐことが私たちの使命。慰霊の追悼と検証を継続したい」と謝辞を述べました。



式辞を述べる宮坂町長

鶴川漁協厚真支所がホッキ貝を寄贈

鶴川漁業協同組合厚真支所・ホッキ部会の西館純之部会長は9月5日、町教育委員会に浜厚真産の殻付きホッキ貝約230kgを贈りました。

ホッキ貝の寄贈は、平成22年から毎年欠かさず続けられていて、学校給食で提供されています。今年も、13日に給食センターでホッキカレーに調理され、町内のこども園や小・中・高校で650食が振る舞われました。

西館部会長は「生育は順調で、昨年よりひと回り大きい貝が採れました。甘くて味も濃いので、たくさん食べて欲しい」と話すと、遠藤教育長は「ふるさと教育の面からも、海の幸を味わうことで、厚真の産業や自然への理解を深めています。感謝します」とお礼を述べました。



水揚げしたホッキ貝を遠藤教育長に贈る西館さん

道内の若手神職が 北海道胆振東部地震発災5年慰霊祭

道内の若手神職で作る北海道神道青年協議会は8月17日、総合福祉センターで「北海道胆振東部地震発災5年追悼式」を行い、犠牲者を悼み町の復興を願いました。

協議会は、壊滅的な被害を受けた神社への寄付や苫小牧市で復興祈願祭と慰霊祭を実施。5年の節目に合わせて、最大の被災地の厚真町で慰霊祭を行いました。

総合福祉センターには祭壇が設けられ、町長や議長など来賓を含む25人が出席して神事が行われ、犠牲者に鎮魂の祈りを捧げる「光舞（ひかりまい）」も演じられました。



「光舞」を演じる青年神職たち

「ならやまマルシェ」を初開催



会話が弾み笑顔に包まれたマルシェ

富里地区の厚北地域防災コミュニティセンターならやまで8月19日、初めてとなる「ならやまマルシェ」が開かれました。

主催の住民団体「つむぎ」（村上朋子代表）が、住民手作りによるイベントを通じて、コミュニティの輪を広げようと企画しました。摘みたて野菜の販売や日用雑貨のリサイクル、アロマ体験などのコーナーが設けられました。

会場では、「久しぶり、元気だった」や「新鮮でおいしいそうな町内の野菜が買えるなんてうれしい」、「初めてならやまで運転してきました」など楽しい会話が広がりました。また、午後からは厚南デイサービスの利用者がマイクロバスで訪問し、かき氷を食べながら地域住民と交流を深めました。村上さんは「これが目指すコミュニティ。さらに交流の輪を広げていきたい」と話しました。

町と町教育委員会が主催する第20回集まりリンピック（第55回町民体育祭）が8月20日、本郷地区のかしわ公園野球場で開催されました。

12自治会やオープン参加など、町民約500人が集まりました。コロナ禍を経て4年ぶりの開催となり、バスケットボール元日本代表の折茂武彦さん、バレーボール元日本代表の成田都久美さん、厚真町で発足した女子サッカーチームのノルディーア北海道、スピードスケート短距離の元五輪代表の鈴木靖さんを特別ゲストに招き、トークショーや競技を通じてたっぷり触れ合いました。

個人や団体など全12種目が行われ、ゲストチームもほとんどの種目に参加し、会場はアットホームな雰囲気になりました。6人1組でチームワークを競う「ムカデ大レースin厚真」では、気持ちが空回りして転倒するひと幕も。また、足自慢を連ねた混合年代別リレーでは、声援を受けながら見事なバトンリレーを繰り広げました。

第20回集まりリンピックを開催



声援を浴びながら三人四脚で力走する選手たち



厚真町土地改良区前理事長の山田英雄さんが 全国表彰を報告

厚真町土地改良区前理事長の山田英雄さんが9月8日に町長を表敬訪問し、農村振興技術連盟大賞の受賞を報告しました。

同賞は、農村の振興に功績があった個人や団体に贈られるもので、山田さんは北海道などから推薦されました。本年度は山田さんを含む12人が、9月5日に東京都内で表彰されました。山田さんは「先人の苦勞あつての受賞なので、重みを感じています」と報告すると、宮坂町長は「ご尽力のお陰で、生産基盤は強じんなものになったと思います。おめでとうございます」とたたえました。



賞状を手に受賞を報告した山田さん



感謝状を手にする高橋支店長

町が地崎道路株式会社北海道支店に 感謝状を贈る

町は9月11日、地域貢献に尽力した地崎道路株式会社北海道支店（高橋勝之取締役支店長）に感謝状を贈りました。

厚真中央小学校のグラウンドフェンスの補修や、老朽化した簡易トイレを撤去するなど、教育環境の改善に貢献しました。

令和5年度厚真町敬老会を開催

令和5年度厚真町敬老会が9月15日、4年ぶりに総合福祉センターで開かれ、216人が集って旧交を深めました。

今年度の対象は、80歳以上となる726人。百歳以上の2人に長寿祝い、米寿を迎えた10人に町から記念品などが贈られました。宮坂町長は「これからも、楽しい夢を追いかけてください」とあいさつし、来賓の渡部議長も「元気なお姿でお越しいただいたことをうれしく思います」と語りました。



百歳以上の長寿祝いを受け取った
佐久間しげ子さん

浜厚真の山田耕司さんの乳牛が 日胆畜産共進会で最高位の名誉



オーシャン・カレン・ハーゲン号

浜厚真の山田澄恵さんが繁殖した乳牛（オーシャン・カレン・ハーゲン号）が、安平町で8月に開かれた日胆畜産共進会で出産を経験した「経産クラス」の最高位の名誉に輝き、同地区代表として9月23、24日に安平町で開かれた北海道総合畜産共進会に出品されました。

ハーゲン号は、きめ細かな育成技術によって、背筋が伸びた姿勢や健康度、体形バランスなど、総合的に高評価を得ました。山田澄恵さんは「今回の名誉は、世話を惜しまない息子夫婦への贈り物だと思います。皆さまに感謝します」と語りました。

※乳牛の名前はカタカナの小文字を使わないため「オーシャン」となります